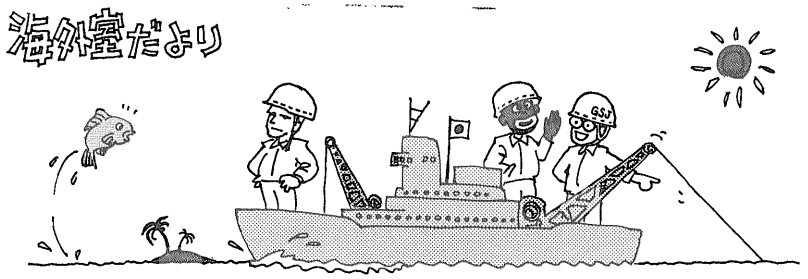


NO. 6

外国人よろず相談承り所　海外室は　当所および所長あての外国からのすべての郵便物の受付窓口となっています.　そのほとんどは　いわゆる公文書もしくはそれに準ずるものですが　まったくプライベートなものも何通か含まれています.　私文書の内容は千差万別で海外室のスタッフだけで回答できるものは　できるだけ早く返事を出すことにしており　その他専門の分野に関する問い合わせ等に関しては　それぞれの部課の関係者に対応をお願いしています.

海外室が処理するものは　いわゆる「よろず相談」的な内容が多く　中にはその対応に苦慮するケースもあります.　最近小生が担当した「よろず相談」の事例を数ある中から2件ご紹介いたしましょう.

その1（南米のある国の大学生から）　苦学生なのかコンピュータ記録紙を切り取って作った便箋上には　地質アトラスや100万分の1の日本地質図その他数点を　無料で送ってほしい旨の文章が　ミスが目立つ英文でタイプされていました.　地質学を専攻しているという彼に　多少の同情の余地はありましたが　そのような虫のいい申し出は　丁重におことわりすることにしました.

その2（米国のご婦人から）　ものすごく達筆で書かれた文面には　次のような内容がしたためられていました.　昭和20年9月2日　彼女の親友が米軍機に乗ってわが国の上空を飛行中　誤って Mt. Sashiki に墜落したということです.　彼女は　マウント・サシキが日本のどこにあるのか　また　どれくらいの高さなのか等の情報を知りたくて　米軍やその他関係機関に問い合わせたのですが　ナシのつぶてで　とうとう分からずじまいだったとか.　思いあぐねて　ある地学関係の雑誌社に依頼したところ　当所を紹介されたとのこと.　彼女の親友の飛来目的がもしも本土爆撃であったならば　心情的にも絶対に回答なぞするものかと思ったのですが　9月2日は終戦から2週間以上も後ですから　戦闘が目的でないことは明らかです.　ご婦人のこのような切なる願いに弱い小生は　自分で手に入れられるあらゆる地名に関する情報をかき集めたり　国土地理院等に問い合わせた結果　サシキと発音する山はありませんでしたがサジキと濁る山名は3か所見つけ出すことができました.　すなわち　群馬県嬬恋村　山梨県鳴沢村　それにサジキガタケ（佐敷ケ岳）がある京都市北区.　3か所の役場では　古老などに問い合わせるなどの協力をして下さいましたが　結局　航空機まして当時の情勢としては敵機墜落という衝撃的な事実はまったく存在しなかったということです.　ここに至って万事休す.　もはや何の手掛かりもなくなってしまい　故人のご冥福を祈る手紙のみ　海を渡りました.

読者の皆さん　マウント・サシキにはとらわれず　終戦当時　米軍機墜落の有力な情報をお持ちでしたら　日米民間外交推進のため　ご協力をお願いします.

（田口）

標本館を見学する ITIT 国際シンポジウムの招へい講演者の一行.　右から2人目が　中国地質科学院地質力学研究所の崔盛芹所長.（昭和60年12月3日）

謹賀新年　from　海外室　新年に当り海外室のスタッフ全員より　年頭所感を出してもらいました.　掲載は公平を期して原稿到着順としました.　本年も海外室一同よろしくお願い申し上げます.

赤道直下で猛獣天国　そしてプレートの割れ目といわれる大地溝帯　と揃ったアフリカのケニアで地熱開発に

佐藤　良昭

藤井　紀之

長谷川　博

斎藤友三郎

福田　理

寺岡易司

梅村　裕子
（臨時職員）

狩野　篤

堀内香代子
（臨時職員）

石井　武政

佐藤　洋子
（臨時職員）

桑形　久夫

野間　泰二

武居　由之

木下　泰正

海外地質調査協力室の現行スタッフ

田口　雄作

協力していましたが　昨年末　任期を終え元気に帰国しました．　<主任研究官　佐藤　良昭>

新年おめでとうございます．

今年こそ　もう少し計画的な国際活動の年にしたいと念願しています．　もっとも　私自身は「正月や定年の旅への一里塚」の心境ですが…….　<室長　藤井　紀之>

長期海外勤務より帰国して約2年を経過し　やっと落ち着いて本来の研究業務に携われると思っていましたが長年にわたる海外業務と海外生活の絆は　なかなか切れるものではないようです．　昨年も CCOP 事務局のセクレタリーや　フィリピン鉱山局の友人が夫婦同伴で訪日して　私をたよりに滞在したり CCOP のプロジェクト協力者達から　関係資料の送付依頼やアドバイスの要請などがありました．　これからも色々とあると思いますが　昔の誼を大切にしてゆきたいと思っています．

<主任研究官　長谷川　博>

新年おめでとうございます．

“虎は千里を帰る”といわれ　戦争中は千人針の図案にもよく使われていたように思う．　その寅年が自分の還暦の年に当るとは　つい最近まで気づいていなかった．

ことしは　集団研修にとっては　大変めでたい年である．　昭和42年に開設された沿海鉱物資源探査と地下水資源開発の両コースが　ともに20年目を迎え　研修員の受け入れ数も　それぞれ200名を越すことです．

このため　記念のセミナーまたはシンポジウムの開催を検討中ですが　実現の際は　また格別のご協力を賜りたいものと考えております．<主任研究官　斎藤　友三郎>

昨年暮　関係民間会社によって超電導エネルギー貯蔵研究会が発足した．　研究会名となっている技術は　電力貯蔵を目指す新技術で　2000年には実用化されるといわれているが　日本にない大量のヘリウムを必要とする．　しかもヘリウムは国内備蓄が考えられない厄介ものである．　本年はヘリウム資源に関する基礎資料のとりまとめを急ぎ　資源確保の道を探したい．

<主任研究官　福田　理>

昨年7月　地質部から海外室に移りました．　外国人

とのつきあいは苦手なので　それはできるかぎり敬遠しもっぱら地質図関係の国際プロジェクトに精を出しています.

今年は是非とも　環太平洋地域北西区画のテクトニックマップを　完成したいと思っております.

<海外資源特別研究官　寺岡　易司>

あけましておめでとうございます.

海外室に来て　早10か月が過ぎました.　他の職場とは違った側面を持ち　最初は戸惑いがありましたが　今は数年いるような顔をして仕事をしています.　様々な国の人達との出会い…….　今年も新たな気持ちで仕事を始め　そして　有意義な1年にしたいと思っております.

<臨時職員　梅村　裕子>

最近のテレビのCMに　背中にピンク色をした巻貝をつけて　その貝を「ヤリガイ」と呼び　貝の大きさでその人が仕事に対してやりがいを　どのくらい感じているかを表現したものがありますが　皆さんはご存じですか？　海外室でも　さまざまな大きさのヤリガイが見られます.

私は海外室に移り　ヤリガイは大きくなっていると思います.　しかし　このままではヤリガイは成長が止まってしまうので　今年は英語を学び　もっともっと大きく育てようと思います.　皆さんもヤリガイを大切に！

<事務官　狩野　篤>

お正月に誕生日を迎える私にとって　新しい年の始まりが　喜ばしい思いだけで迎えられなくなって久しい.
しかし　怠け者の私にとって　そこを一つの区切りに
また新たに出発できる年の始めは希望の時でもある.
暮れに20名の研修生を子供を送り出す思いで見送った.
20周年を迎えると言う研修の仕事の中で　今年も小さな心のつながりを大切に　また一歩　小さな歩みを進めたい.

<臨時職員　堀内　香代子>

昭和60年の地下水資源開発集団研修コースは　11か国から11名　うち3名の女性研修員を迎え　関係各位のご協力を得て　去る12月中旬に　無事終了致しました.
第20回目に当る今年の同コースにおいては　募集要項の応募資格に“30才前後の女性に限る”の一項を入れ……やはり無理でしょうね.　怖いですから.

(併任)<主任研究官　石井　武政>

毎年　お正月を迎えると　今年こそ何か一つぐらいはと　意を決したものでしたが　ここ数年そういうこともなくなり　この原稿依頼を受け　ハッとさせられた次第です.　仕事をしていますと　人との接触が多い分だけ考えさせられることも多いものです.　与えられたチャンスを大切に　今年も少しでも皆さんのお役に立てたら幸いです.

<臨時職員　佐藤　洋子>

歓迎　Welcome Benvenuti Mabuhay Marhaban と昨年も600名の海外からのお客様をお迎えし　名刺4箱がなくなったほどでした.　御来訪の皆様に満足して帰っていただくためには　第一印象が非常に大切です.
そのためにも今年もヒゲの手入れは怠りなく　ハート to ハートでお迎えすることを誓っている次第です.

<技術協力専門職　桑形　久夫>

明けましてお目でとうございます.

4か月コースの地下水資源開発集団研修を終え　時間的にも　また気分的にも一寸ゆっくりできるときです.
一人一人の研修員を思い浮かべながら……新年度の研修のときには　こうしてやろう　またああもしてやろうと毎年同じようなことの繰返しで　一年一年が過ぎてゆきます.

(併任)<主任研究官　野間　泰二>

毎年　アジア　アフリカ　中近東　中南米　オセアニアから7か月　4か月の期間で来日する集団研修員は沿海鉱物探査　地下水開発を学ぶとともに　日本語も熱心に覚えております.　研修の世話をする私たちも　日常会話をいくらかでも　アジア　アフリカの言葉で言えるようになりたいものです.

(併任)<主任研究官　武居　由之>

昨年　はじめて集団研修コースの業務に携わり　研修生との昼夜の交流の甲斐あって　多少なりとも　海外事情に明るくなったような気がする.　さらに　明るさを増すために今年も研修生との交流を深め　今後の国際技術・研究協力の発展に明かりを灯すことができればと思う.

(併任)<主任研究官　木下　泰正>

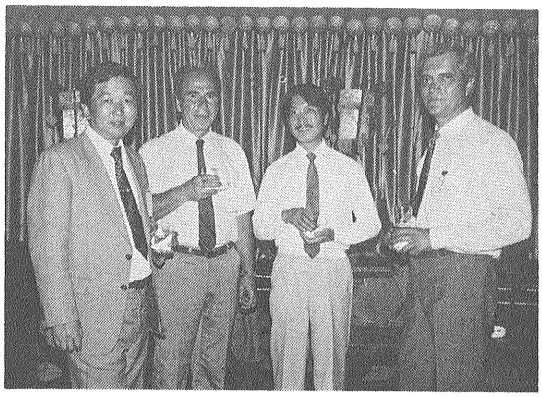
初夢——資源大国トルコと　技術大国日本の協力で世界のエネルギー問題　食料問題がすべて解決——が実現することを祈ります.

(在トルコ長期派遣専門家)<主任研究官　太田　英順>

すべての道はローマに通ず.　然るに　ローマは一日にして成らず.　国際研究協力における「ローマ」をいかに構築せんか.　城郭の石垣のごとく　小さな力を一つ一つ積み上げるを以て.　油断召さるな各々がた.

千丈の長堤も蟻穴より崩れるの例あり．　今年も磐石の礎を築くため　騎虎の勢いで　いざ行かん!!

<主任研究官　田口　雄作>



金属鉱床調査の打ち合わせ後　トルコ側関係者と歓談する太田専門家（右から２人目）

黒いクリスマスと暑いお正月

海外に滞在していて　情緒が最も不安定になるのは日本人には暑いお正月　欧米人には雪のないクリスマスの時ではないでしょうか．　何百年も培われてきた民族の風俗・習慣は　その人が自覚していなくても体内の深奥に根づいていて　折にふれて脳細胞　ときには涙腺をも刺激することさえあります．　日本に居るときは音楽はクラシックしかないと思っていた人が　在外期間が長くなると　都はるみ　北島三郎のファンに変心したり　また日本大使館の屋上にひるがえる日の丸の旗に胸がじんとなったりするのは　あながちホームシックのせいばかりとは言えません．　24節気に見られるように　日本人は自然に対して繊細な神経をもち　季節の移り変わりには　事のほか敏感です．　その季節の総決算　落語では借金とりの決算日でもある大晦日　つづいてすべてを旧年に流して朝から祝杯をあげるお正月は　日本人にとっては欠くべからざる句読点です．　しかし日本以外ではカレンダーが新しく変わる日でしかありません．　私自身も暑いお正月を14回すごしましたが　ついに一度も休んだこともなく　いつも言いしれぬ淋しさが心を噛む一日でした．　12月半ばのある日　当所を訪れたジンバブエの地質技師が「今年はホワイトクリスマスをすごせます」と嬉しそうに言った言葉が印象的でした．　彼はジンバブエで生れ育った英国人で国籍も持つ白いアフリカ人です．　しかし体内に流れる英国人の血が雪のクリスマスへのノスタルジーをかきたてたのでしょう．　その心境は痛いほど理解できました．　（桑形）

これから開催される地学関係の主な国際会議

名称，開催時期，場所	連絡先	要旨制限，締切日，登録料等
2nd Scientific Assembly of the Intn'l Assoc. of Hydrol. Sci. (IASH) (1st Circular) 1986年７月２—10日 Budapest, Hungary	Dr. A. Szöllösi-Nagy, Executive Secretary, 2nd IASH Scientific Assembly, Water Resources Research Center(VITUKI) H-1453 Budapest, P. O. Box 27, Hungary	締切済 登録料不明
Intn'l Symposium on the Geology of Gold Deposits (GOLD '85) (1st Circular) 1986年９月28日—10月１日 Tronto, Canada	The Organizing Committee, Gold '85 Suite 1700, 55 University Avenue, Tronto, Ontario, M5J 2H7 Canada	500語以内，1986年２月28日 （ポスターセッションのみ受付） 約ＵＳ＄150
IGCP Project 220 Correlation and resources evaluation of tin/tungsten granites in SE Asia and the Western Pacific Region (1st Circular) 1986年９月　Ipoh, Malaysia	The Director SEATRAD Center Tiger Lane, 31400 Ipoh, Malaysia	200語以内 1986年４月１日 ＵＳ＄100
11th Intn'l Congress on Carboniferous Stratigraphy and Geology (1st Circular) 1987年９月７—11日　北京，中国	Prof. Yang Jingzhi Chairman of the Chinese Program Committee Nanjing Institute of Geology and Palaeontology, Academia Sinica, Nanjing, China	500語以内 1986年３月15日 ＵＳ＄300